

事務事業名	県郡市指導主事会参画事業		所属部局	教育委員会		単位番号	12120								
			所属課室	南アルプス教育推進課		課長名	秋山光永								
			所属担当	指導監		担当者名	芦澤秀幸								
基本政策	基本計画体系	V	個性と文化を育む都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目				
		23	学校教育の充実		01	一般	1	0	0	1	0	2	0	2	0
政策	36	「生きる力」を育む学校教育の推進	事業区分	☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☒ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金											
施策															
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 年度)		法令根拠	事業費の主な内訳 (22年度)											
	☐ 期間限定複数年度 (年度)														
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 学校における教育課程、学習指導その他学校教育に関する専門的事項の指導等、指導主事の職務をよりよく遂行するために相互に交流し、また、教育に関する諸問題の解明と教育施策の推進を図り、もって市内小中学校の教育振興に寄与する。			項目(細節) 金額(千円) 項目(細節) 金額(千円)											
				負担金				81							
								計				81			

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
22年度活動実績	年間13回の研修会において、講師を招いての研修、レポート提案による研修等を通して教育的課題について研修を行った。
23年度活動予定	市内小中学生の教育に寄与するため、今日的な教育課題について、年間を通じて計画的で主体的な研修を行う予定。
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
教育指導担当指導監および指導主事	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	
研修したことが校内研究会等の学校訪問の折に生かせるようにしていく。	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
研修の内容を的確に還元することにより、市内小中学校の教育推進に寄与する。	

⇒ ⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 郡市指導主事研修会参加	日
イ	
ウ	
⇒ ⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 指導監・指導主事	人
イ	
ウ	
⇒ ⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 郡市指導主事研修会参加	日
イ 情報・知識を提供した人数	人
ウ	
⇒ ⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 情報・知識を提供した人数	人
イ	

(2) 事業費・指標の推移		単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 (トータルコスト・目標)	年度
年間 トータル コスト	事業費	国庫支出金	千円							
		県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		一般財源	千円		79	93	93	93	93	
	事業費計 (A)		千円	0	79	93	93	93	93	0
	人件費	正規職員従事人数	人		2	2	2	2	2	
		延べ業務時間	時間		240	240	240	240	240	
		人件費計 (B)	千円	0	1,071	951	951	951	951	0
	(A)+(B)		千円	0	1,150	1,044	1,044	1,044	1,044	0
活動指標		ア	日		15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	
		イ								
		ウ								
対象指標		ア	人		2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	
		イ								
		ウ								
成果指標		ア	日		15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	
		イ	人		550.0	550.0	550.0	550.0	550.0	
		ウ								
上位成果指標		ア	人		550.0	550.0	550.0	550.0	550.0	
		イ								

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	本会は指導主事の力量を高めるために、南アルプス市誕生以前より活動しており、市教育委員会に指導主事が配置されたときより参画している。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	めまぐるしい社会変化により、教育環境をはじめ子どもたちを取り巻く状況は厳しいものといえる。したがって指導主事に求められる資質はより多様化していくと思われる。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	事業の継続・推進が求められている。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☐ 取り組みしている ⇒【内容！】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由！】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	より適時的な研修内容の改善が進められている。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	県外研修、総合教育センターとの合同研修会、レポート提案

事務事業名	県都市指導主事会参画事業	所属部	教育委員会	所属課	南アルプス教育推進課
-------	--------------	-----	-------	-----	------------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？ 意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 研修会の選流が学校教育の充実に役立っている。
	②公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 公共の立場で行うことが教育の公平性において妥当である。
	③維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 研修会負担金の内容を見直す必要がある。
有効性 評価	④成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 事業内容を再度分析し、必要性を検討することが必要である。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入！) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない
	⑥休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 本事業を廃止することにより。情報収集・周知が困難になってしまう。 ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 本事業を廃止することにより。情報収集・周知が困難になってしまう。
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 負担金の使途を明確にし、公で負担すべきものとそうでないものを見極める必要性が出てきている。
	⑧人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 指導監と指導主事それぞれの
公平性 評価	⑨受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 研修の成果は、市内全体の公立小中学校の指導に生かされている。

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	研修負担金については、内容を分析をし公的に負担すべきものとそうでないものを見極める必要がある。郡市指導主事会の事務局が毎年変わり、事業計画の詳細が予算編成時には決まらないこと、負担金の内容についても事務局と協議する必要がある。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)		<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果水準</td><td>向上</td><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>維持</td><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table>				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☒																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について		※ 廃止・休止の場合は記入不要																						
①年間の実施計画や予算について、事務局と話し合いをもつ。																								
②																								
③																								
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策		(5) 事務事業優先度評価結果																						
①年間の実施計画や予算について、事務局と話し合いをもつ。		成果優先度評価結果	対象外																					
②																								
③		コスト削減優先度評価結果	対象外																					